

第2回 伊勢湾漁業影響調査委員会 指摘と対応 (案)

検討項目	指摘	対応
現地調査結果（中間報告）について	標本漁家数のデータとともに、全体の漁家数を示してほしい。	全体の漁家数（母数）として、どのような数値を用いるか丁寧に検討し報告する（委員会での回答）。
	重要漁業生物の抽出の横軸が統計データによるものか、標本船調査結果によるものかわからないので、説明してほしい。	標本船調査結果によるものである（委員会での回答）。→その後資料を修正して公開している。
	魚類調査（底魚）はどのような操業をした結果なのかを詳しく教えてほしい。	一定の曳網時間による、等深線に並行に曳いた調査結果である（委員会での回答）。
	護岸生物調査では、もう少し詳しく護岸に蟄集する魚を調査してほしい。例えば、水中のモニターカメラを用いて記録する方法もある。	ご指摘を踏まえて調査内容について検討する。
	各魚種の出現状況と貧酸素水塊との関係を解析してほしい。	ご指摘を踏まえた解析をする。今回の資料ではシャコを中心に貧酸素水塊との関係を検討している。
	浮遊幼生調査の中で同定、分別が可能なその他の二枚貝の種類を教えてください。アサリの調査結果をみると、三河湾側の供給源から伊勢湾側に供給される幼生ネットワークの存在がうかがえることから、仮に候補地に遮断構造物ができたときに、伊勢湾と三河湾の間の浮遊幼生の供給ネットワークに支障が出るかどうかという判断は評価の1つの見方になると思う。	タイラギ、トリガイ、バカガイなどほとんどは分別が可能であるが、アカガイは近縁種があり難しい。なお、保管している今年度調査試料は、抗体処理によって劣化しており、分別は難しい（委員会での回答）。来年度の現地調査において、アサリ以外の二枚貝類の浮遊幼生についても調査を実施する予定である。
	魚類調査（底魚）の結果で、イシガレイが候補地周辺でしか採集されていないが、その理由について、何か事務局で意見、感想があれば教えてください。	個体数が少ないので実態を試験操業でうまく捉え切れない可能性があると考えている。今後の調査結果を見て判断したい（委員会での回答）。また、標本船調査結果をみる

		とインガレイは刺網によってほとんど漁獲されており、採集漁法の問題が大きいと考えられる。
	マゴチは産卵期の6～7月に空港島周辺に特化して分布しており、産卵のためにこの海域を利用している可能性があるのではないか。産卵可能な個体であるという個体識別を、外観もしくは生殖腺重量を調べて把握する必要があるのではないか。	毎月の標本船調査結果における分布の集中を見ながら、産卵時期を重ねていくと、産卵場所も想定できるかもしれないのでチャレンジしていきたい(委員会での回答)。また、個体識別の観察も来年度の現地調査に追加する予定である。
	名古屋港内において多くのアサリ母貝が確認されているようだが、名古屋港、三河湾の母貝量を踏まえて、幼生の交流への影響を評価することが今後可能か。	春に名古屋港で多くの母貝を確認しており、その評価の可能性については資料3のアサリ浮遊幼生シミュレーションにおいて紹介したい(委員会での回答)。
	重要魚種の資源動態を予測する際の卵・稚仔の動態について、技術的な限界もあり不明卵が非常に多い。種同定が可能・不可能な種類をもう少し明確に示してほしい。	来年度の現地調査において、不明な卵・稚仔を詳細に同定する技術として、孵化実験及びDNA分析の実施を予定している。
伊勢湾シミュレータの再現状況について	候補地北側において貧酸素水が湧昇してくるというメカニズムについての感触を教えてください。	河川流量が増加して表層に淡水が存在し、湾内の西側に河川水が寄るような風のパターンができたときに補償する形で底層水が知多半島の西側にやってくるパターンがありそうと見ている。現在解析中なので今後紹介したい(委員会での回答)。
	候補地北側の流れの停滞域は800m格子で再現できるのか。	今後の検討は、200m格子で再現していきたい(委員会での回答)。
	浮遊幼生は受動的に移動させているが、発生初期は実験では確実に最上層に浮上する。その条件を反映した方が再現性は上がると思うので、検討してほしい。	今後、ご指摘を踏まえて検討する。
	水深が深い場所にもアサリ母貝が生息しているという確認もある	母貝量の精査については、今後、秋以降の調査結果も見て、

	<p>ので、今の状態で現地調査結果と計算をあわせるだけでなく、未知の母貝場があることを考えた方がよいと思う。</p>	<p>設定方法を精査していきたい（委員会での回答）。</p>
	<p>アサリの浮遊幼生の鉛直移動は、以前は石田さんの文献を参考にしていたと思うが、なぜ変更したことで再現が良くなったのかを教えてください。その件は丁寧に説明した方がよいと思うし、現段階ではあまり断定的に言わない方がよいと思う。</p>	<p>一概にどちらがよいというのは今後の調査結果を待たないと評価が難しいと考えており、以前の移動式でもある程度再現できると考えている（委員会での回答）。</p>
	<p>観測結果より計算結果が高い値を示しているときが多く、計算結果を信頼するのであれば、逆に観測が追い切れていないという見方をしてもよいものか。今後、仮に同様な調査をするのであれば、計算結果から観測点を決める方法もあると思う。</p>	<p>流れ場のパターンを見るとピークの時期は必ずしも観測時期ではないところがあり、観測が追い切れていないと考えている。粒子の発生時期等の仮定から起こっている違いかもしれない（委員会での回答）。</p>
	<p>今回の計算結果では、風向によって無効分散が増えるという計算結果になったと思うが、これまで漁獲等のデータとその年に卓越した風の方角との関係を検討した結果はないのか。</p>	<p>水産総合研究センターが検討していたと思う（委員会での回答）。後日、情報提供させて頂いた。</p>
	<p>一番効きそうな要素である伊勢湾全体（三河湾も含む）での風の空間的な違いを考慮した計算はされているのか。さらに、将来予測に向けて、風の吹くタイミング、風向、頻度が大きく効きそうなので、これから計算をしながら少しずつ考えた方がよいだろう。</p>	<p>今回は伊勢湾モニタリングブイで測定されている海上風を空間的に補完して1時間に1個のデータとして与えているので、風については精度よく入力できていると考えている（委員会での回答）。</p>
	<p>塩分や潮流の再現において一部差が顕著である印象を受けるが、この再現を改善する余地はあるのか。また、その改善がアサリの浮遊幼生の予測精度の向上に寄与する可能性はどの程度あるのか教えてください。</p>	<p>塩分の再現性については、鉛直方向の水の混ざり方を決める鉛直粘性のパラメーターの決め方に検討の余地があると考えている。潮流については今後四季調査結果を見て検討を続けていきたいと考えている（委員会での回答）。</p>